

# 家庭科（家庭経営分野）の学習項目の検討

— 系統的カリキュラムの構築へむけて —

八幡(谷口)彩子・茂呂友子\*

## A Study of Learning Items of Home Management in Home Economics Education : the Construction of a Systematic Curriculum

Ayako YAHATA-TANIGUCHI and Tomoko MORO\*

(Received October 4, 2004)

The purposes of this paper are 1) to consider the learning items of home management in home economics education in Japan and the United States by means of analyzing college students' consciousness of learning needs, and 2) to construct a systematic curriculum of home management on home economics education.

For these purposes, 1) we distributed a questionnaire of "learning application for life in home management" to college students in Kumamoto city, 2) analyzed the data statistically, and 3) constructed a new curriculum of home management in home economics education.

The results are as follows: 1) Learning application for present and past life of college students was high in the fields of health, self-understanding and parenting. 2) The learning needs in future life were high in the fields of parenting, welfare of the old, and consumer living. 3) The willingness to learn was high in the fields of parenting, health and welfare of the old. 4) The statistics on the learning needs and willingness to learn are significantly different from their sex, college, family members in present and future. 5) We constructed a new systematic curriculum of home management in home economics education within the field of vision from elementary school to career education.

**Keywords :** home economics education, systematic curriculum, learning items, home management.

### I. 研究目的

平成15年度より、高等学校において、新学習指導要領による学習が始まった。家庭科では知識と技術の習得に終わらず、学んだことを実生活に生かして各自の生活課題を解決し、意思決定し、よりよい生活を工夫する能力の育成が求められている。筆者はこれまでに、人の一生を見通した家庭科の全領域における学習項目に関する検討を行ってきた<sup>1)</sup>。その中で、家庭経営分野は、小・中・高等学校の家庭科の中で、実践的・体験的な学習内容・学習方法の充実が求められている分野であることがわかってきた。とくに、発達段階や興味・関心に応じた家庭経営分野の学習項目を配置したカリキュラムの構築と、学習者の興味・関心に応じた指導法の開発は、この分野の検討課題でもある。

そこで、これらに関する基礎資料を得、今後の指導に役立てることを目的として、大学生を対象にアンケート調査を実施した。

本調査の目的は、1) 大学生は、家庭経営分野のどの学習項目を、大学生になるまでの生活に役立ったと考えているのか、その実態を把握すること、2) 大学生は、家庭経営分野のどの学習項目を、これからの生活に役立つと考えているのか、その状況を把握すること、3) 大学生は、家庭経営分野のどの学習項目を学びたいと思っているのか、その状況を把握すること、4) 上記の検討結果をもとに、必要性（生活への役立ち状況）と学習意欲（学びたいか）の現状をふまえた、家庭科・家庭経営分野のカリキュラム体系を構築すること、の4点である。

\* 大分県立宇佐産業科学高等学校

## II. 研究方法

カリキュラム構築に先立ち、大学生を対象とする調査を以下の方法で実施した。

- (1) 調査時期：平成15年6月～7月
- (2) 調査対象：熊本市内の2つの4年生大学及び1つの短大に在籍する学生
- (3) 調査方法：自記式集合調査
- (4) 調査票数：配布数256、有効回収数250、有効回収率99.7%。
- (5) 調査対象者の属性：大学生の属性について、表1に示している。性別は、男子が25.2%、女子が74.8%、学部は、教育学部が72.4%、その他の学部が27.6%であった。また、アンケート項目への回答に影響を及ぼすとみられるのが、現在及び将来の家族状況である。現在の家族構成では、「家族と暮らしている」が53.6%、「一人暮らし」が42.8%、将来希望する家族構成では、「夫婦と子ども」が75.6%、「夫婦と子どもと親」が11.6%であった。また、高校時の家庭科の履修科目は、「家庭一般」が約9割を占めていた。
- (6) 調査内容：アンケート調査に先立ち、日本の小・中・高等学校の現行学習指導要領に示された学習項目と、アメリカの家庭科の教科書のうち、日本語に翻訳されている『ティーン・ガイド』<sup>2)</sup>と『スキルズ・フォア・ライフ』<sup>3)</sup>にみられる学習項目との検討

を行い、100の学習項目を挙げてみた。そして、それぞれ関連のある内容ごとにまとめ、「自己理解」や「人間発達」などの12領域に分類した。その学習項目には、日本とアメリカの家庭科教育に含まれる領域構成の違いなどから、通常、日本では保育などの家庭経営以外の分野と考えられる項目も含まれている。結果として、衣食住に関する領域を除くかなり広範囲の学習項目を、本研究では家庭経営分野として扱った。

本研究では、これらの学習項目について、これまで役立ったか、これから役立つか、学びたいか、の3点について、4段階評価による調査を実施した。

(7) 集計方法：調査結果の統計処理は、男女、学部、現在の家族構成、将来の家族構成に分類し、単純集計、クロス集計、 $\chi^2$ 検定を用いて分析を行った。

## III. 研究結果および考察

### 1. 大学生の家庭経営分野の領域・学習項目に関する調査結果

ここでは、100項目に及ぶ全学習項目の評価結果は紙面の都合で割愛し、各学習項目が含まれる領域の結果について述べる。表2には、4段階評価のうち、「大変役立った(役立つ)」「まあまあ役立った(役立つ)」、あるいは「大変学びたい」「まあまあ学びたい」と答

表1. 調査対象者の属性

		全体		男		女	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
	全体	250	100.0	63	100.0	187	100.0
年齢	18歳	56	22.4	1	1.6	55	29.4
	19歳	83	33.2	18	28.6	65	34.8
	20歳	67	26.8	24	38.1	43	23.0
	21歳	32	12.8	13	20.6	19	10.2
	22歳以上	12	4.8	7	11.1	5	2.7
大学・短大	K大学	188	75.2	62	98.4	126	67.4
	R大学	8	4.3	1	1.6	7	3.7
	S短期大学	54	28.7	0	0.0	54	28.9
学部	教育学部	181	72.4	62	98.4	119	63.6
	その他	69	27.6	1	1.6	68	36.4
現在の家族構成	一人暮らし	107	42.8	39	61.9	68	36.4
	家族と暮らしている	134	53.6	24	38.1	110	58.8
	その他	9	3.6	0	0.0	9	4.8
将来希望する家族構成	独身	14	5.6	5	7.9	9	4.8
	独身+親	2	0.8	1	1.6	1	0.5
	夫婦のみ	3	1.2	0	0.0	3	1.6
	夫婦+親	2	0.8	2	3.2	0	0.0
	夫婦と子ども	189	75.6	40	63.5	149	79.7
	夫婦と子ども+親	29	11.6	10	15.9	19	10.2
	その他	7	2.8	3	4.8	4	2.1
高校時の家庭科履修科目	不明	4	1.6	2	3.2	2	1.1
	家庭一般	224	89.6	54	85.7	170	90.9
	生活技術	2	0.8	1	1.6	1	0.5
	生活一般	4	1.6	0	0.0	4	2.1
	わからない	18	7.2	7	11.1	11	5.9
その他	2	0.8	1	1.6	1	0.5	

表 2. 調査項目別学習領域の順位

順位	①大学生になるまでの生活で役立った	②これからの生活に役立つ	③学びたい
1	(10)健康	(3)親になること・保育	(3)親になること・保育
2	(1)自己理解	(7)高齢者と福祉	(10)健康
3	(3)親になること・保育	(8)消費生活	(7)高齢者と福祉
4	(8)消費生活	(10)健康	(8)消費生活
5	(12)地域・環境	(11)職業	(11)職業
6	(4)家族・家庭生活	(9)家庭経済	(12)地域・環境
7	(2)人間発達	(12)地域・環境	(9)家庭経済
8	(5)人間関係・家族関係	(2)人間発達	(5)人間関係・家族関係
9	(6)生活経営・家庭経営・資源管理	(5)人間関係・家族関係	(6)生活経営・家庭経営・資源管理
10	(7)高齢者と福祉	(4)家族・家庭生活	(1)自己理解
11	(11)職業	(6)生活経営・家庭経営・資源管理	(2)人間発達
12	(9)家庭経済	(1)自己理解	(4)家族・家庭生活

えた割合の平均が高かった領域を順に示している。

まず、「大学生になるまでの生活で役立った」と答えた割合が高かった領域は、「(10)健康」「(1)自己理解」「(3)親になること・保育」などであった。これらに含まれる学習項目で同じく割合が高かったのは、「他人を知ること」、「基本的生活習慣の形成」、「健康の種類と大切さ」、「友人・仲間関係」、「自分の成長の振り返り」などであった。

「これからの生活に役立つ」と答えた割合が高かった領域は、「(3)親になること・保育」、「(7)高齢者と福祉」、「(8)消費生活」であった。学習項目では、「親の役割と子どもの人間形成」、「幼児の心身の発達に合わせたかかわり方」、「母体の健康管理と子どもの誕生」、「親になることの準備」、「親の保育責任とその支援」など、保育分野の割合が高かった。

「学びたい」と答えた割合が高かった領域は「(3)親になること・保育」、「(10)健康」、「(7)高齢者と福祉」であった。学習項目では「幼児の心身の発達に合わせたかかわり方」、「母体の健康管理と子どもの誕生」、「親の役割と子どもの人間形成」、「子どもの発達に影響するもの」、「親になることの準備」と「これからの生活に役立つ」と同様保育分野の割合が高かった。

つぎに、こうした生活への役立ちや学びたいという意欲に影響を及ぼす要因と思われる、性別・学部・現在の家族構成・将来、希望する家族構成による違いについて、学習項目ごとに $\chi^2$ 検定を行った結果を表3に示した。とくに「学びたいか」における学部による違いが顕著であり、「(9)家庭経済」と「(12)地域・環境」を除くすべての領域で、学部の違いによる有意差がみられた。一方、「(1)自己理解」、「(2)人間発達」、「(4)家族・家庭生活」、「(7)高齢者と福祉」、「(10)健康」では、男女、現在の家族構成、将来の家族構成の違いによる有意差が少なかった。このほか、

「(3)親になること・保育」、「(8)消費生活」では、現在および将来の家族構成の違いによる有意差がみられた。また、「(5)人間関係・家族関係」、「(9)家庭経済」では、学習項目によって、男女差、現在および将来の家族構成の違いによる有意差がみられた。さらに、「(6)生活経営・家庭経営・資源管理」、「(11)職業」では、男女差および現在の家族構成による違いがみられ、「(12)地域・環境」では男女差がみられた。このように、家庭経営分野の学習項目は、男女、家族構成や将来への志向等により、興味・関心、学習意欲等に違いがある。こうした違いを考慮しながら、教材研究を行っていく必要がある。

2. 小学校・中学校・高等学校の家庭科（家庭経営分野）の系統性をふまえたカリキュラムの構築  
つぎに、上記の大学生へのアンケート調査の結果をもとに、以下の手順により、小・中・高等学校の家庭経営分野のカリキュラム案を作成した。

まず、各学習項目について、大学生が、これまでの生活に「役立った」（「大変役立った」と「まあまあ役立った」との合計）と答えた割合と、「これからの生活に役立つか」に「役立つ」（「大変役立つ」と「まあまあ役立つ」との合計）と答えた割合を表4に示した。つぎに、これまでの生活に「役立った」と答えた割合が高かった学習項目と、これからの生活に「役立つ」と答えた割合が高かった学習項目を、それぞれ割合が高い順に表5に示した。それぞれ上位20項目、下位20項目ずつを比較した結果、次の点が把握できた。

1) 「これまでの生活に役立った」と「これからの生活に役立つ」ともに高かった学習項目は、「(3)親になること・保育」の「子どもの発達に影響するもの」、「子どもの安全」、「基本的生活習慣の形成」と、「(8)消費生活」の「賢い消費者になるために」であった。

表3. 各学習項目における観点別有意差

学習項目	男女差			学部による差			現在の家族構成による差			将来の家族構成による差		
	立つたか	これから	学びたいか	立つたか	これから	学びたいか	立つたか	これから	学びたいか	立つたか	これから	学びたいか
(1)自己理解												
①自己イメージ				**	**							
②パーソナリティ(人格)				**		*						
③自分らしさ				**	**							
④個人差				*								
⑤自分の成長の振り返り				**	*	*						
(2)人間関係												
①生涯発達と各ライフステージの特徴や課題						*						
②死						*						
(3)親になること・保育				*	*					**	**	
①子どもを生き育てることの意義				*	*					**	**	
②親になることの手続き				*						**	**	
③母体の健康と子どもの誕生	*	*								**	*	
④親の役割と子どもの人間形成				**								
⑤親の保育責任とその支援				*	*							
⑥子どもの心身の発達と生活				**		*						
⑦子供の発達に影響するもの				**	*	**	*					
⑧乳児の心身の発達に合わせたかかわり方				**		**	*			*		
⑨子どもの飲水				**								
⑩子どもの安全				**	*							
⑪子どもの遊びの意義				**	*	**						
⑫基本的生活習慣の形成				*		**						
⑬幼児の生活に役立つもの製作	*	*										
⑭子どもを取り巻く環境の変化と課題												
⑮児童福祉の基本理念												
⑯児童虐待				**			*					
⑰ケアや配慮が必要な子どもたちの状況				**	**							
(4)家族・家庭生活						*						
①家族の定義				**								
②家族・家庭の機能				**								
③現代の家族の特徴				**					**			
④いろいろな家族				**	**							
⑤自分と家族や家庭生活とのかわり				**	**							
⑥家庭生活と福祉・地域とのかわり	*	*		*	*	*						
(5)人間関係・家族関係												
①感情の覚化				**								
②他人を知ること				*								
③外見と行動				*								
④様々なコミュニケーションの仕方				**								
⑤夫婦関係				**								
⑥親子関係				**								
⑦きょうだい関係				*		*				*		
⑧親族関係												
⑨異年齢者とのつきあい				*	*							
⑩友人・仲間関係				*	*							
⑪異性関係・デートの仕方	*	*		*	*	*						
⑫いろいろな文化の人とのつきあい	*	*		**	**	*				*		
⑬家族内の役割の変化				*	*		*					
⑭家族とのふれ合いや団らん工夫				*	*		*					
⑮家族の危機				*	*		*			*		
⑯家庭内暴力				*	*		*		**			
⑰セクシャルハラスメント	*	*		*	*		*		*	*		**
⑱人間関係の対立の解決方法	*	*		**	**		*		*	*		
⑲地域の人々との交流の意義	*	*	*	**	**		*		*	*		
(6)生活経営・家庭経営・資源管理				*	**							
①人間の基本的な欲求	*	**										
②ライフスタイルと生活にかかわる価値観	*	**										
③生活経営の手順								**				
④生活情報の収集・選択と活用				*	*				*	*		
⑤資源(時間・材料・お金・エネルギー等)の管理												
⑥短期目標・長期目標	*	*										
⑦リスク・マネジメント(生活の危機管理)	**	**						*				
⑧生活設計	*	*						*	*	*		
⑨自分の将来と家族	*	*		*	*			*	*	*		
⑩ファミリーライフサイクル	*	*		*	*			*	*	*		
⑪家族・家庭を変える行動	*	*		*	*			*	*	*		*
⑫家族と生活時間	*	*		*	*			*	*	*		*
⑬家族会議	*	*		*	*			*	*	*		*
⑭家族・家庭と法律	*	*		*	*			*	*	*		*
⑮学習環境と学ぶ技術	*	*		*	*			*	*	*		*
⑯自分と印象	*	*		*	*			*	*	*		*
⑰自分の身を守る	*	*	*	*	*			*	*	*		*
(7)高齢者と福祉								*	*	*		*
①高齢者の心身の特徴と生活の課題				*	*			*	*	*		*
②高齢者の自立生活支援と福祉				*	*			*	*	*		*
③食事・着脱衣・移動などの介助				*	*			*	*	*		*
④介護の心構えとコミュニケーション	*	*		*	*			*	*	*		*
⑤高齢化社会の現状と課題	*	*		*	*			*	*	*		*
(8)消費生活				*	*	*	*	*	*	*	*	*
①賢い消費者になるために				*	*	*	*	*	*	*	*	*
②消費行動と意思決定				*	*	*	*	*	*	*	*	*
③消費者の選択に影響する要因				*	*	*	*	*	*	*	*	*
④消費者としての購入能力	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑤信用販売(クレジット)	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑥消費者の権利と責任	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑦消費者問題と消費者の保護	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑧消費生活の現状と課題	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑨消費行動と消費環境とのかわり	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
(9)家庭経営				*	*	*	*	*	*	*	*	*
①家庭経済の仕組み	**	**		*	*	*	*	*	*	*	*	*
②家計管理と経済計画	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
③家事労働の費用	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
④収入の管理・支出計画・貯蓄・利息	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
(10)健康				*	*	*	*	*	*	*	*	*
①健康の種類と大切さ	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
②10代の青少年の心理やストレス	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
③基礎・ストレスの処理の仕方	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
(11)職業				*	*	*	*	*	*	*	*	*
①なぜ働くのか	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
②働く上で必要な能力	**	**		*	*	*	*	*	*	*	*	*
③家庭と仕事の両立	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
④自分に合ったキャリア	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑤履歴書と応募書類	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑥人々を援助する職業	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑦職業・子どもに関する職業	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑧資源管理に関する職業(消費者など)	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
(12)地域・環境				*	*	*	*	*	*	*	*	*
①学校・地域社会の良し一員になること	**	**	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
②犯罪や暴力と地域の安全	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
③天然資源の役割	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
④環境の影響	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*
⑤環境負荷の少ない生活への取り組み	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*

註) \*:p<.05 \*\* :p<.01

これらの学習項目は、「学びたい」と答えた割合も高かった。このうち「(3) 親になること・保育」の領域で「これまでの生活に役立った」と答えたのは自分が育つ立場で「役立った」ということで、「これからの生活に役立つ」では、家庭や社会の一員として子どもを育てる立場での回答だったと思われる。学習する段階(学年・年齢)としては、子どもを育てる立場に近い時期がより望ましいと考える。

2) 「これまでの生活に役立った」で高く、「これからの生活に役立つ」で低い学習項目は、「(1) 自己理解」の「自分の成長の振り返り」と「(5) 人間関係・家族関係」の「外見と行動」、「きょうだい関係」であった。学習する段階としては、アンケート結果からもわかるように、将来の生活に視点を置く高等学校より早い時

期がよいのではないかと考える。

3) 「これまでの生活に役立った」で低く、「これからの生活に役立つ」で高い学習項目は、「(7) 高齢者と福祉」の「食事・着脱衣・移動などの介助」であった。「(7) 高齢者と福祉」で「これからの生活に役立つ」と答えた割合は、「(3) 親になること・保育」に続いて高かった。

4) 「これまでの生活に役立った」と「これからの生活に役立つ」ともに低い学習項目は、「(5) 人間関係・家族関係」の「親族関係」、「異性関係・デートの仕方」、「家族の危機」、「家庭内暴力」、「セクシャルハラスメント」と、「生活経営・家庭経営・資源管理」の「リスク・マネジメント(生活の危機管理)」、「家族会議」、「家族・家庭と法律」であった。これらは全学習

表4. 大学生がこれまでの生活に「役立った」と答えた割合

順位	領域	学習項目	割合（％） （これまでの生活に「役立った」と答えた）	順位	領域	学習項目	割合（％） （これまでの生活に「役立った」と答えた）
1	(5)	②他人を知ること	58.0	51	(3)	②親になることの準備	40.4
2	(3)	⑫基本的生活習慣の形成	57.2	52	(4)	④いろいろな家族	40.0
2	(10)	①健康の種類と大切さ	57.2	52	(6)	⑫家族と生活時間	40.0
4	(5)	⑩友人・仲間関係	56.0	54	(11)	③家庭と仕事の両立	39.6
5	(1)	⑤自分の成長の振り返り	55.2	55	(5)	⑭地域の人々との交流の実践	39.2
6	(10)	②10代の青少年の心理的緊張(ストレス)	54.8	55	(8)	⑤信用販売(クレジット)	39.2
7	(5)	④様々なコミュニケーションの仕方	53.2	57	(11)	⑥人々を援助する職業	38.8
8	(5)	⑨高齢者とのつきあい	52.4	57	(6)	⑪家族・家庭を支える労働	38.8
9	(12)	④環境の影響	51.2	57	(8)	⑧消費生活の現状と課題	38.8
10	(1)	④個人差	50.8	57	(3)	⑭子どもを取り巻く環境の変化と課題	38.8
11	(10)	③葛藤・ストレスの処理の仕方	50.4	61	(3)	⑨子どもの欲求	38.0
12	(8)	①賢い消費者になるために	50.0	62	(6)	②ライフスタイルと生活にかかわる価値観	37.6
13	(6)	⑤資源の管理	49.6	62	(9)	④収入の管理・支出計画・貯蓄・利息	37.6
13	(6)	⑪自分の身を守る	49.6	64	(8)	⑨消費行動と資源や環境とのかかわり	37.2
15	(3)	⑩子どもの安全	48.8	64	(7)	①高齢者の心身の特徴と生活の課題	37.2
16	(3)	⑦子供の発達に影響するもの	48.0	66	(11)	①なぜ働くのか	36.8
16	(12)	⑤環境負荷の少ない生活への取り組み	48.0	67	(7)	④介護の心構えとコミュニケーション	36.4
16	(5)	③外見と行動	48.0	67	(2)	②死	36.4
16	(5)	⑥親子関係	48.0	67	(6)	①人間の基本的な欲求	36.4
16	(5)	⑦きょうだい関係	48.0	70	(12)	②犯罪や暴力と地域の安全	36.0
21	(3)	③母体の健康管理と子どもの誕生	47.6	71	(5)	⑭いろいろな文化の人とのつきあい	35.6
22	(3)	⑩児童虐待	47.2	71	(11)	②働く上で必要な能力	35.6
23	(3)	⑩子どもの遊びの意義	46.4	73	(6)	⑧生活設計	35.2
23	(1)	②パーソナリティ(人格)	46.4	74	(6)	⑥短期目標・長期目標	34.8
25	(3)	⑧幼児の心身の発達に合わせたかかわり方	46.0	74	(12)	①学校・地域社会の良い一員になること	34.8
25	(6)	⑥消費者の権利と責任	46.0	76	(3)	⑬幼児の生活に役立つものの製作	34.4
25	(6)	⑩身なりと印象	46.0	77	(6)	⑮学習環境と学ぶ技術	32.8
28	(3)	①子どもを生き育てることの意義	45.6	77	(6)	③生活経営の手順	32.8
29	(3)	⑥子どもの心身の発達と生活	45.2	79	(4)	①家族の定義	32.4
29	(4)	②家族・家庭の機能	45.2	80	(6)	④生活情報の収集・選択と活用	32.0
29	(6)	⑨自分の将来と家族	45.2	81	(11)	④自分に合ったキャリア	31.2
32	(3)	④親の役割と子どもの人間形成	44.8	82	(11)	⑤履歴書と応募書類	30.8
32	(5)	①感情の変化	44.8	82	(5)	⑧親族関係	30.8
34	(2)	①生涯発達と各ライフステージの特徴や課題	44.4	84	(7)	③食事・着脱衣・移動などの介助	30.4
34	(1)	③自分らしさ	44.4	85	(5)	⑩人間関係の対立の解決方法	30.0
34	(4)	⑤自分と家族や家庭生活とのかかわり	44.4	86	(6)	⑩ファミリーライフサイクル	29.6
34	(3)	⑩ケアや配慮が必要な子どもたちの状況	44.4	86	(3)	⑮児童福祉の基本理念	29.6
38	(8)	②消費行動と意思決定	44.0	88	(7)	②高齢者の自立生活支援と福祉	29.2
38	(8)	④消費者としての購入能力	44.0	88	(11)	⑧資源管理に関する職業	29.2
40	(5)	⑭家族とのふれ合いや団らんの工夫	43.6	90	(6)	⑦リスク・マネジメント(生活の危機管理)	28.0
40	(8)	③消費者の選択に影響する要因	43.6	90	(9)	③家事労働の費用	28.0
42	(12)	③天然資源の役割	43.2	92	(5)	⑪異性関係・デートの仕方	26.8
43	(7)	⑤高齢化社会の現状と課題	42.4	93	(5)	⑪セクシャルハラスメント	25.6
43	(1)	①自己イメージ	42.4	93	(6)	⑬家族会議	25.6
43	(3)	⑤親の保育責任とその支援	42.4	93	(6)	⑭家族・家庭と法律	25.6
46	(11)	⑦家族・子どもに関する職業	42.0	93	(9)	①家庭経済の仕組み	25.6
47	(5)	⑬家族内の役割の変化	41.6	97	(5)	⑤夫婦関係	24.8
48	(8)	⑦消費者問題と消費者の保護	41.2	98	(5)	⑯家庭内暴力	24.4
48	(4)	⑥家庭生活と福祉、地域とのかかわり	41.2	99	(9)	②家計管理と経済計画	23.6
50	(4)	③現代の家族の特徴	40.8	100	(5)	⑮家族の危機	22.0

表5. 大学生がこれからの生活に「役立つ」と答えた割合

順位	領域	学習項目	割合(%) -これからの生活に役立つと答えた	順位	領域	学習項目	割合(%) -これからの生活に役立つと答えた
51	(3)	②親になることの準備	40.4	51	(8)	⑨消費行動と資源や環境とのかかわり	69.6
52	(4)	④いろいろな家族	40.0	52	(11)	①なぜ働くのか	69.2
52	(6)	⑩家族と生活時間	40.0	52	(6)	⑩家族・家庭を支える労働	69.2
54	(11)	③家庭と仕事の両立	39.6	54	(9)	①家庭経済の仕組み	68.8
55	(5)	⑬地域の人々との交流の実践	39.2	54	(9)	③家事労働の費用	68.8
55	(8)	⑤信用販売(クレジット)	39.2	56	(4)	⑥家庭生活と福祉、地域とのかかわり	68.4
57	(11)	⑥人々を援助する職業	38.8	56	(8)	⑧消費生活の現状と課題	68.4
57	(6)	⑩家族・家庭を支える労働	38.8	58	(10)	②10代の青少年の心理的緊張(ストレス)	68.0
57	(8)	⑧消費生活の現状と課題	38.8	59	(6)	⑩自分の身を守る	67.6
57	(3)	⑭子どもを取り巻く環境の変化と課題	38.8	59	(5)	⑥親子関係	67.6
61	(3)	⑨子どもの欲求	38.0	61	(9)	②家計管理と経済計画	67.2
62	(6)	②ライフスタイルと生活にかかわる価値観	37.6	62	(11)	⑧資源管理に関する職業	66.4
62	(9)	④収入の管理・支出計画・貯蓄・利息	37.6	62	(12)	①学校・地域社会の良一員になること	66.4
64	(8)	⑨消費行動と資源や環境とのかかわり	37.2	64	(4)	⑤自分と家族や家庭生活とのかかわり	66.6
64	(7)	①高齢者の心身の特徴と生活の課題	37.2	64	(5)	⑩友人・仲間関係	66.6
66	(11)	①なぜ働くのか	36.8	66	(5)	⑬地域の人々との交流の実践	64.8
67	(7)	④介護の心構えとコミュニケーション	36.4	67	(6)	⑯身なりと印象	64.4
67	(2)	②死	36.4	67	(2)	①生涯発達と各ライフステージの特徴や課題	64.4
67	(6)	①人間の基本的な欲求	36.4	69	(6)	④生活情報の収集・選択と活用	64.0
70	(12)	②犯罪や暴力と地域の安全	36.0	69	(5)	⑯人間関係の対立の解決方法	64.0
71	(5)	⑫いろいろな文化の人とのつきあい	35.6	71	(2)	②死	63.2
71	(11)	②働く上で必要な能力	35.6	72	(6)	③生活経営の手順	62.8
73	(6)	⑧生活設計	35.2	72	(4)	②家族・家庭の機能	62.8
74	(6)	⑥短期目標・長期目標	34.8	72	(6)	⑩ファミリーライフサイクル	62.8
74	(12)	①学校・地域社会の良一員になること	34.8	75	(1)	③自分らしさ	62.0
76	(3)	⑬幼児の生活に役立つものの製作	34.4	75	(5)	⑯家族内の役割の変化	62.0
77	(6)	⑮学習環境と学ぶ技術	32.8	77	(5)	⑭家族とのふれ合いや団らんの工夫	61.6
77	(6)	③生活経営の手順	32.8	78	(1)	④個人差	60.8
79	(4)	①家族の定義	32.4	79	(5)	①感情の変化	60.4
80	(6)	④生活情報の収集・選択と活用	32.0	80	(1)	⑤自分の成長の振り返り	60.0
81	(11)	④自分に合ったキャリア	31.2	80	(5)	③外見と行動	60.0
82	(11)	⑤履歴書と応募書類	30.8	80	(5)	⑰セクシャルハラスメント	60.0
82	(5)	⑧親族関係	30.8	83	(1)	②パーソナリティ(人格)	59.6
84	(7)	③食卓・着脱衣・移動などの介助	30.4	83	(6)	⑦リスク・マネジメント(生活の危機管理)	59.6
85	(5)	⑯人間関係の対立の解決方法	30.0	85	(5)	⑦きょうだい関係	59.2
86	(6)	⑩ファミリーライフサイクル	29.6	86	(1)	①自己イメージ	58.8
86	(3)	⑮児童福祉の基本理念	29.6	87	(4)	③現代の家族の特徴	58.4
88	(7)	②高齢者の自立生活支援と福祉	29.2	87	(4)	④いろいろな家族	58.4
88	(11)	⑧資源管理に関する職業	29.2	89	(6)	⑭家族・家庭と法律	58.0
90	(6)	⑦リスク・マネジメント(生活の危機管理)	28.0	89	(6)	⑩家族と生活時間	58.0
90	(9)	③家事労働の費用	28.0	91	(5)	⑧親族関係	55.6
92	(5)	⑩異性関係・デートの仕方	26.8	92	(5)	⑯家庭内暴力	55.2
93	(5)	⑰セクシャルハラスメント	25.6	92	(4)	①家族の定義	55.2
93	(6)	⑮家族会議	25.6	94	(6)	⑮学習環境と学ぶ技術	54.8
93	(6)	⑭家族・家庭と法律	25.6	95	(5)	⑩異性関係・デートの仕方	54.0
93	(9)	①家庭経済の仕組み	25.6	96	(6)	⑮家族会議	53.2
97	(5)	⑤夫婦関係	24.8	97	(6)	⑥短期目標・長期目標	52.4
98	(5)	⑯家庭内暴力	24.4	98	(6)	①人間の基本的な欲求	47.6
99	(9)	②家計管理と経済計画	23.6	98	(6)	②ライフスタイルと生活にかかわる価値観	47.6
100	(5)	⑮家族の危機	22.0	100	(5)	⑮家族の危機	45.6

表6. 小学校・中学校・高等学校家庭科（家庭経営分野）のカリキュラム案

領域	小学校	中学校	高等学校	高等学校以降の生涯教育
			家庭総合(4単位)	
自己理解	自分らしさ 個人差	自分らしさ 個人差 自分の成長の振り返り	パーソナリティ(人格) 自分の成長の振り返り	
人間発達			生涯発達と各ライフステージの特徴や課題	死
親になること・保育		幼児の心身の発達に合わせたかかわり方 子ども(幼児)の遊びの意義 子ども(幼児)の生活に役立つものの製作	子どもを生き育てることの意義 親になることの準備 母体の健康管理と子どもの誕生 親の役割と子どもの人間形成 親の保育責任とその支援 子どもの心身の発達と生活 子どもの発達に影響するもの 幼児(子ども)の心身の発達に合わせたかかわり方 子どもの欲求 子どもの安全 子どもの遊びの意義 基本的生活習慣の形成 子どもを取り巻く環境の変化と課題 児童福祉の基本理念 児童虐待 ケアや配慮が必要な子どもたちの状況	母体の健康管理と子どもの誕生 親の役割と子どもの人間形成 親の保育責任とその支援 子どもの心身の発達と生活 子どもの発達に影響するもの 幼児(子ども)の心身の発達に合わせたかかわり方 子どもの欲求 子どもの安全 基本的生活習慣の形成 児童虐待 ケアや配慮が必要な子どもたちの状況
家族・家庭生活	自分と家族や家庭生活とのかかわり 家庭生活と(福祉、)地域のかかわり	家族・家庭の機能 自分と家族や家庭生活とのかかわり 家庭生活と(福祉、)地域のかかわり	家族の定義 家族・家庭の機能 現代の家族の特徴 いろいろな家族 家庭生活と福祉、地域のかかわり	
人間関係・家族関係	感情の認知 様々なコミュニケーションの仕方 親子関係 きょうだい関係 友人・仲間関係 家族とのふれ合いや団らんの工夫 地域の人々との交流の真摯	他人を知ること 外見と行動 様々なコミュニケーションの仕方 親子関係 高年齢者とのつきあい 友人・仲間関係 家族内の役割の認知 人間関係の対立の解決方法 地域の人々との交流の真摯	様々なコミュニケーションの仕方 夫婦関係 友人・仲間関係 異性関係・デートの仕方 いろいろな文化の人とのつきあい 家族の危機 家庭内暴力 セクシャルハラスメント 人間関係の対立の解決方法 地域の人々との交流の真摯	夫婦関係 親族関係 家族の危機 家庭内暴力 セクシャルハラスメント 人間関係の対立の解決方法 地域の人々との交流の真摯
生活経営・家庭経営・資源管理	家族・家庭を支える労働(自分の分担する仕事の工夫) 家族と生活時間(自分の生活時間の見直し) 家族会議 学習環境と学ぶ技術 身なりと印象 自分の身を守る	人間の基本的な欲求 資源(家族・時間・お金・エネルギーなど)の管理 自分の将来と家族 家族・家庭を支える労働 身なりと印象 自分の身を守る	ライフスタイルと生活にかかわる価値観 生活経営の手順 生活情報の収集・選択と活用 資源(家族・時間・お金・エネルギーなど)の管理 短期目標・長期目標 リスク・マネジメント(生活の危機管理) 生活設計 自分の将来と家族 ファミリーライフサイクル 家族・家庭と法律	資源(家族・時間・お金・エネルギーなど)の管理 リスク・マネジメント(生活の危機管理) 家族・家庭と法律
高齢者と福祉			高齢者の心身の特徴と生活の課題 高齢者の自立生活支援と福祉 食事・着脱衣・移動などの介助 介護の心構えとコミュニケーション 高齢化社会の現状と課題	高齢者の自立生活支援と福祉 食事・着脱衣・移動などの介助 介護の心構えとコミュニケーション
消費生活	買い消費者になるために 消費者としての購入能力(物の選び方や買い方)	買い消費者になるために 消費行動と意思決定 消費者としての購入能力 消費者問題と消費者の保護	買い消費者になるために 消費行動と意思決定 消費者の選択に影響する要因 信用販売(クレジット) 消費者の権利と責任 消費者問題と消費者の保護 消費生活の現状と課題 消費行動と資源や環境とのかかわり	消費者としての購入能力 信用販売(クレジット) 消費者の権利と責任 消費者問題と消費者の保護 消費行動と資源や環境とのかかわり
家庭経済	収入の管理・支出計画・貯蓄・利息(物や金銭の使い方)	収入の管理・支出計画・貯蓄・利息	家庭経済の仕組み 家計管理と経済計画 家事労働の費用 収入の管理・支出計画・貯蓄・利息	家計管理と経済計画 収入の管理・支出計画・貯蓄・利息
健康	健康の重要性	健康の重要性 10代の青少年の心理的緊張(ストレス)なぜ働くのか	健康の重要性 葛藤・ストレスの処理の仕方 働く上で必要な能力 家庭と仕事の調立 自分に合ったキャリア 履歴書と応募書類 人々を援助する職業 家族・子どもに関する職業 資源の管理に関する職業 (金融・地域社会・消費者・環境)	葛藤・ストレスの処理の仕方
職業				
地域・環境	学校・社会の良の一員になること 環境負荷の少ない生活への取り組み	学校・社会の良の一員になること 環境の影響 環境負荷の少ない生活への取り組み	学校・社会の良の一員になること 天然資源の役割 環境の影響 環境負荷の少ない生活への取り組み 犯罪や暴力と地域の安全	環境負荷の少ない生活への取り組み 犯罪や暴力と地域の安全
その他				

註)太字は、小学校と中学校、高等学校の家庭科相互に重複してとりあげられる学習項目を示している。  
発達段階に応じて、系統的に学習が深められていく必要のある学習項目である。

項目の中でも「学びたい」と答えた割合が低かった。「異性関係・デートの仕方」に関しては、近年出会い系サイトなどの問題が指摘され、性教育というより人間関係の一つとして学習してはどうかと考える。また、「家族の危機」、「家庭内暴力」、「セクシャルハラスメント」、「リスク・マネジメント（生活の危機管理）」は、「これまでの生活」のなかで直面したことの無い場面だったり、「これからの生活」で直面すると想像もしていない問題なのかもしれないが、「家庭内暴力」や「セクシャルハラスメント」は、社会的な問題であり、社会の変化が激しい状況に対応していくためにも、危機管理に関する学習は、社会人になっても必要と考える。こうした学習項目については、生活防衛的な視点から学んでおくことが望ましいと考えられる。そのためには、生徒の興味・関心、動機づけを高める学習指導上の工夫が求められよう。

表4.5による上記の考察とあわせて、「これまでの生活に役立った」、「これからの生活に役立つ」と答えた割合の高低、同じ学習項目間の「これまでの生活に役立った」、「これからの生活に役立つ」と答えた割合の差などをとらえ、各学習項目を小・中・高等学校のどの段階で学習すべきかを考え、カリキュラムを作成した(表6)。なかには、高等学校の卒業後、社会人になってからの学習の方がむしろ望ましいと思われる項目もあった。それらの項目については、高等学校以降の生涯学習として配置した。

小・中・高等学校の発達段階に応じて、小学校では家族の一員としての自分の成長、中学校では自分自身を認識しながら現在の生活の中での自立、高校では社会の一員としての自分や、将来の社会生活の中での自立をめざし、高校卒業以降は、現代の家庭生活、社会生活に直接に関わる問題の学習が大切と考える。

ところで、日本の学習指導要領には、「(1) 自己理解」「(5) 人間関係・家族関係」「(10) 健康」「(11) 職業」の領域に関する学習項目がほとんどみられない。家庭科にとって、「自分らしさ」や「人間関係」も大切なキーワードである。同様に、「(10) 健康」のストレスの処理や葛藤といった心の問題、人間関係の中で生じる問題も、コミュニケーション能力の一つとして重要である。さらに、「(11) 職業」に関しても、アメリカの教科書のように「なぜ働くのか」を考え、働くために必要な能力を認識し、自分の将来を考える、という流れは、自分と職業との関係をより具体的に考えることが出来る。とくに、高等学校において、職業教育としての専門教育「家庭」のあり方が問われている。小・中学校や高等学校における普通教科「家庭」との系統づけ方を今後考えていく必要がある。

#### IV. 要 約

日本の現行学習指導要領やアメリカの家庭科教科書にみられる家庭経営分野の学習項目について、大学生を対象に調査を実施した結果、大学生が「これまでの生活で役立った」と答えたのは「(10) 健康」「(1) 自己理解」「(3) 親になること・保育」、「これからの生活に役立つ」と答えたのは「(3) 親になること・保育」「(7) 高齢者と福祉」「(8) 消費生活」、「学びたい」と答えたのは「(3) 親になること・保育」「(10) 健康」「(7) 高齢者と福祉」であった。

これらは性別、所属学部、現在や将来の家族構成の違いにより興味・関心、学習意欲等に違いがみられた。とくに「(10) 健康」「(8) 消費生活」は現在および将来の家族構成の違いが、「(5) 人間関係・家族関係」「(9) 家庭経済」は男女差、現在および将来の家族構成による違いがみられた領域であった。さらに、「(6) 生活経営・家庭経営・資源管理」「(11) 職業」では男女差および現在の家族構成による違いが、「(12) 地域・環境」では男女差がみられた。このことから家庭経営分野の指導を行う際には、扱う内容により性別、興味・関心、現在や将来の家族構成の違い等による学習意欲の違いを考慮する必要があると考える。

さらに、今回の調査結果をもとに小・中・高等学校の家庭科(家庭経営分野)の系統性を重視したカリキュラム案を構築した。このカリキュラムの妥当性については、今後、個別の題材研究で検証していきたい。

なお、本研究の一部は、日本家庭科教育学会九州地区会2004年度第8回研究発表会において発表した。

最後に、調査にご協力いただいた熊本大学、熊本県立大学、尚綱短期大学の学生の皆さんに深謝します。

#### 文 献

- 1) 八幡(谷口)彩子・緒方美智子(2002), 人の一生を見通した高等学校家庭科の学習内容に関する考察(第1報), 熊本大学教育学部紀要(自然科学), 51, 67-74.  
八幡(谷口)彩子・緒方美智子(2003), 人の一生を見通した高等学校家庭科の学習内容に関する考察(第2報), 熊本大学教育実践研究, 20, 17-23.
- 2) チェンバレン著, 牧野カツコ監訳(1992), ティーン・ガイド(人間と家族について学ぶアメリカの家庭科教科書), 家政教育社.
- 3) S・コウチ, G・フェルスステハウマン, P・ホールマン共著, 牧野カツコ編著(2002), スキルズ・フォア・ライフ, 家政教育社.